

1. 授業構想や実践報告

学年	教材	検討内容
6年 H学級	「帰り道」	教科書の内容が新しく変わり、「帰り道」という物語文が新たに加わり、その物語文の解釈について検討した。その物語は2場面構成されているが、1場面の主人公の「律」の視点に着目して読み取っていくことが必要である。
	「創造」	最初の「1まいの紙から」という文に着目して、解釈や授業構想を考えた。最初の文からではなく、「象が生まれる」という文に着目し、置物であっても命があるということに“変だ、おかしい”と気づかせることがまず必要である。また、「創る」「造る」ではなく、「生まれる」と表記されていることに着目する必要がある。
4年 I学級	「春のうた」	「春のうた」の授業を実践したが、授業者側が明確な証拠がないまま、曖昧に解釈をしたり、詩の一文一文を深く読み取れていなく、大雑把に授業を展開したりしていることに気づくことができた。 詩の中で何度も出てくる「ほっ」や「ケルルンクック」という言葉について検討した。また、「おおきなくも」が“雲”なのか、もしくは“蜘蛛”なのかについて検討し、詩は一文一文関連しているため、なぜその順番に詩が書かれているのか、深く読み取っていくことが必要である。